

会議録

| | |
|--|---|
| 会議の名称 | 西東京市公民館運営審議会平成26年度第9回定例会会議記録 |
| 開催日時 | 平成26年12月17日（水曜日） 午後6時30分から8時30分 |
| 開催場所 | 田無公民館 第二学習室 |
| 出席者 | 委員：渡辺文子、野間春二、瀬川容子、馬場真由美、真鍋五十鈴、畠山昭裕、糸山時子、中曽根聡、上田幸夫、武司一郎、新藤浩伸、小林克彦、西原みどり 職員：田中館長、小笠原分館長、鴨志田分館長、長谷部分館長、平井分館長、石川分館長、神田園子（オブザーバー社会教育課）、伊佐英夫、水野伸江、山崎雄仁、小池素子、松永尚江、伊勢郁美 |
| 欠席者 | 大野雅生 |
| 議題 | 1 平成26年度第8回定例会の記録について 2 報告事項 行政報告 公民館だより編集室報告 都公連委員会研修報告 ひばりが丘公民館臨時利用者懇談会報告 第56回関東甲信越静公民館研究大会の進捗状況等報告 平成27年度事業方針・事業計画の進捗状況等報告 学習支援保育要綱の状況報告 3 審議事項 事業評価公運審メンバーの選出について （2）事業計画書・報告書について 4 事務連絡及び情報交換 |
| 会議資料の名称 | 資料1 西東京市公民館運営審議会平成26年度第9回定例会次第 資料2 西東京市公民館運営審議会平成26年度第8回定例会会議録（案） 資料3 西東京市公民館保育室運営要綱（案）、西東京市公民館学習支援保育実施要綱（案） 資料4 西東京市公民館だより編集室報告 資料5 トリターマ（都公連会報） 資料6 平成27年度西東京市公民館事業方針（案）、27年度重点事業（案） |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録 |
| 傍聴者 | 有り 無し |
| 会議内容 | |
| <p>議題1 第8回定例会の記録について 訂正なし、承認</p> <p>議題2 報告事項 行政報告 ○館長： ・公民館年末年始休館日について。</p> <p>（2）公民館だより編集室報告 ・別紙報告書のとおり</p> <p>（3）都公連委員会研修報告 ○委員： 11月22日午前10時から福生市公民館で、「公民館の活性化の方法」をメインテーマに、東京大学特任助教の荻野亮吾氏を講師として、第2回研修会が実施され44名の参加があった。また第3回研修会が、1月31日（土曜日）午前10時から福生市公民館で、「公民館事業活動参画事例」の事例発表を国立市公民館社教</p> | |

主事井口圭太郎氏、「若者の社会参画と公民館の役割」と題して駒沢大学教授萩原建次郎氏の講演がある。

○事務局：

都公連公開職員研修が来年1月16日（金曜日）午後2時～4時まで、この会場で開催。内容は「ESD（持続可能な開発のための教育）と公民館について」講師は元福生市公民館長伊東静一氏。

(4) ひばりが丘公民館臨時利用者懇談会報告

館長：

・11月30日（日曜日）午前10時～正午、参加者は26人。公共施設の適正配置の計画、PTによる検討の経緯、公民館の効率的な運営等について説明。

「主な意見」

館の利用は今までと変わらないのか。学習支援保育についてはどうか。

○館長：

特段影響はない。

○委員：

一体化、効率化の考え方についてなぜ必要なのか。

○館長：

公民館内で類似事業等整理していく必要がある。社会教育課や関連施設との連携強化も課題である。手続きについては、平成23年に適正配置に関する基本計画のパブコメなどを行い、意見聴取を行っている。また利用懇や公運審の意見も聞ききながら慎重に対応していく。

○：委員

今後丁寧な説明をしていただくのであれば資料の提示をお願いしたい。

○館長：

そうしたい。

○館長：

先日、教育委員会前に開かれる協議会で、この件について頭出しをした。今後条例改正等について話をしていく。

「質疑」

○委員：

教育委員会からはどのような意見があったか。

○館長：

危機管理という点で心配であるという意見があった。

○委員：

社会教育委員の会議は関係ないのか。

○館長：

特に話はしていない。

○委員：

どのような手続きになるのか。

○館長：

これから条例改正等教育委員会に諮っていく。

○委員：

教育委員会にかける時に、公運審の意見は付されるのか。

○館長：

条例改正など議案についての審議ということなので、その一環として公運審の意見はどうかというような質問は出るかもしれない。

○委員：

これからPTで話をしていくのか。

○館長：

PTでも話はしていく。現在 柳沢とひばりで事務的な摺合せを行っている。

○委員：

23年度の時に立ち上がったPTのメンバーが今も継続されているのか。

○館長：

異動等があるが基本的には、各分館長と各館1名の専門員で構成されている。

○委員：

10月の決定のときも新メンバーで話し合われたのか。

○館長：

そうだ。

○委員：

今年度のPTの実績はどうか。

○館長：

4～5回開催している。

○委員：

職員が議論の上での結果ということで、公民館を応援できる意見を発言したい。一方で、PTで十分議論をしてきたのか、ブラックボックスになっていてわからない。会議ではどんな話をしてきたのか。

○職員：

適正配置について、どのような選択肢があるか、で検討を開始した。選択肢は3つ。1.谷戸の分館長を残す。2.ひばりの分館長を残す。3.それ以外の効率化を図れるか、という考えから開始した。初めに消えたのが3.の効率化を図れるかという案。中央館が一体的効率的運営を担うことで成果を上げていくことが妥当であるという理由。次に谷戸、ひばりのどちらの分館長を引き上げるかを議論した。施設の性質上ひばりの分館長を引き上げるのが妥当であろうとなった。

○委員：

職員が議論した中で最善の策であるということで、尊重したいという気持ちもあるが、懇談会の中では、このスケジュールで進めるという意見はなかったと思う。

○館長：

引き続きご理解いただけるようにしていきたい。

○委員：

懇談会だけで済ませないでほしいという意見があった。話を聞いて大切な問題が起きていることがわかったとか、背景情報がほしいという意見も出ていた。懇談していく中で大切な問題がどこにあるか関心が高まったと思う。

館長：

意見を大事にしていきたい。

○委員：

ひばりは若いおかあさん方、新しい住民の方々が育ってきている。館にきて膝を突き合わせていろいろな話をして今日のひばりができたと思う。これからも育てるという配慮が必要ではないか。

○委員：

ひとり減るといのが決まっているが、どこをどう減らすのか。

館長：

減るということではなく、中央館を増強するということだ。

○委員：

現在事業係長は。

館長：

館長が事業係長兼務である。

委員：

欠員でなければ役割を担えるのではないか。事業係長が欠員状態であることが背景にある。一人減ったということは、その上に立って物事を考えなくてはならない。

館長：

事業係長を兼務していることは、年度当初から現在に至っている。

○委員：

大事なことをだよりでお知らせしてもいいのではないか。

館長：

決定したことはだよりに掲載する。

○委員：

決定前に臨時利用懇などで報告をしてもらうのは素晴らしいと思う。

○委員：

兼務じゃなくてひばりを欠にするという考え方はできないのか。条例改正をしなくてもすむ。

○委員：

柳沢に集中するようなイメージを受けた。適正化でひばりの分館長を引き上げてコーデイネイト機能を充実させるために柳沢に増員ということが納得できない。

○委員：

これがどこかの分館の分館長を引き上げるという第一歩だと困る。

(5) 第56回関東甲信越静公民館研究大会の進捗状況等報告

○事務局：

平成27年11月14日（土曜日）小平市市民文化会館（ルネこだいら）で開催決定。

1日開催、分科会開催せず。シンポジウム開催。

基調講演は末本誠氏（神戸大学教授）。テーマ「ESD（持続可能な開発のための教育）と公民館（仮）」。シンポジウムのコーディネーターは上田幸夫氏（日本体育大学教授）。

(6) 平成27年度事業方針・事業計画の進捗状況等報告

○事務局：

平成27年度事業方針、重点事業の案を報告する。事業方針（案）の方は、PTで現在揉んでいる、次回公運審で提示させていただく。

○委員：

PTとは何のことなのか。

○館長：

次年度に向けて、本来全職員で決めていくところだが、PTをつくり検討している。市民企画やだよりも同じである。

○委員：

このPTはどのような構成でいつ立ち上がったのか。メンバーは。チームリーダーは。

○館長：

10月に第1回目ということで4回くらい開催している。各館から専門員1名、正規職員1名で構成している。最終的な責任は館長である。

○委員：

事業方針案に6館が消えているが、ここに提示される前に6館で検討されたものが示されているのか。

○館長：

館で検討した結果をもちより、PTでまとめていく。

○委員：

変更点が多い。なぜ6つがなくなったのか。公民館としては一緒なので減らさなくていいのではないのか。

○事務局：

PTの中でひばりがどうなるかわからないので、6を外すということだ。

○委員：

社会教育委員の中の運営体制についての文書中で、これから市長部局に持ち上げていく中で、6館の公民館とあるものを、公民館自らがそれをあいまいにしてもいいものかどうか。

○事務局：

PTの中で検討したい。

○委員：

館長はこのメンバーには入らないのか。

○館長：

PTはいろいろあり全て入るわけにはいかない。

○委員：

中央館の柳沢に調整機能を集中する案をもって、ひばりの問題を考えてきた。しかし分散型の方が公民館には適していると思う。

○委員：

企画の職員が言っていたのは、他の施設への公民館事業の波及ということをやっていた。公民館がやってきた人と人を結びつけることをもっと外に出て行ってやってください、ということ期待しているのでは。

○事務局：

企画調整について、実施時期や同じような事業が何回かあったので、現在重点事業にそった形で事業計画を調整している。次回調整したものを示したい。

○委員：

重点事業の中に、特色ある事業展開とバランスのいい事業展開を見せていくのが企画部門にたいしても大事ではないか。内部でやっているというのではなく、そうしたことがこの中にはっきり示されている。身近なところでやった方がいいテーマと、館の特色としてこういった分野はこの館でといったいろいろな考え方があろう。こういったことをやっていくということが重要だ。同じように企画からは、新しい分野に切り込むということも言われていた。文面として見せていくような検討をしてもらいたい。

(7) 学習支援保育要綱の状況報告

○事務局：

平成20年に、「公民館における子育て支援の役割に対する答申」をもらっている。「公費保育」から「学習支援保育」に改めるというものである。現在総務法規課と調整を図っている。

○委員：

児童館との関係はどうか。児童館でやっていることを同じように公民館でやるのか。

○事務局：

公民館は学習者の保育を保障するものである。

議題3 審議事項

(1) 事業評価公運審メンバーの選出について

○事務局：

来年1月までに評価メンバーに公運審委員から4名の選出をお願いしたい。26年度企画書・報告書が最終的に出揃ったら、1年間の事業を評価するものである。学識から1名、会長・副会長のどちらか、合わせて来年の任期も踏まえた上であと2名程度の4名をお願いしたい。

(2) 事業計画書・報告書について

平成26年度公民館主催事業計画書（4件）平成26年度公民館主催事業報告書（12件）

（事業計画書）

・講座：地域で創る教育ネットワーク講座「生きていていいと思える社会」へ
ブラック企業や「ひきこもり」問題について「芝久保公民館」 計画書

○委員：

地域課題に取り組む姿勢が素晴らしい。評価したい。

・文学講座「ドイツ文学の楽しみ」自由と希望の言葉の森で「芝久保公民館」 計画書

○委員：

なぜドイツ文学になったのか。

○事務局：

過去古典とか中国関係の講座を開催してきたが、芝久保ではここ数年ヨーロッパの文学というものを開催しておらず、新しい利用者層の開拓も含めて計画した。

・地域防災教室 「田無公民館」 計画書

○委員：

地震全体についてはどこでもやっているが、立川断層に取り組んでくれたことを評価したい。

○事務局：

立川断層や首都直下型地震について正しい知識を得て想定される現象にどう対応し備えていくかで設定した。

・料理講座「マクロビオティック料理作り」 「田無公民館」 計画書

○委員：

健康寿命に取り組んでいることが素晴らしい。平均寿命より健康寿命を中心にした考え方が主になっている。

(事業報告書)

・雑学講座：「世界遺産のそこが知りたい楽しみ方」 「芝久保公民館」 報告書

・第32回芝久保公民館まつり「ふるさと再生日本の昔ばなし」上映会と「アニメ映画はどのようにしてつくる？」のお話 「芝久保公民館」 報告書

○委員：

新地町とのつながりは終わったのか。

○事務局：

復興応援バザーなどを継続しておりつながりは継続している。

・子育てをしている女性の講座「子育て中にキャリアデザイン」 「芝久保公民館」 報告書

○委員：

評価をみていると保育の評価が抜けているが何か意味があるのか。

○事務局：

特段ない。保育人数も多く自主サークル化するなど非常に充実していた。

○委員：

今後の方向性の中に、西東京市の公民館保育は近隣市から羨望的であるとあるが本当にそうか。

○事務局：

国立市が始めて現在他の市でもやっちはいるが、保育室ができる前、公費保育が始まる前から子どもたちをお互いに預け預かりながら保育をし、保育室ができあがった経緯がある。転居されてきた人から、他にはないという話を聞いた。西東京市を含めてこういう保育の制度が少ないのかと思う。

○委員：

乳幼児を持つ保護者の学習権保障に専門の職員が関わる“学習支援保育”は世界的にも先進的の制度と思えるとあるがこれもすごいなと思う。

- ・小筆でかな文字の世界へ 「谷戸公民館」 報告書
- ・多文化共生講座1「学びあおう！世界の子育て 地域の子育て」 「田無公民館」 報告書
- ・料理講座「メンズクッキング」 「田無公民館」 報告書

○委員：
参加者評価がなぜこんなに点数が分かれているのか。

○事務局：
準備の段階で時間が一枠でできると思って18時から準備に入ったが、食事を終えたら22時近くになってしまった。後片付けも参加者にやっていただきたかったができなかった。

○委員：
講座運営については備考欄に記載すればいいのではないかと。

○事務局：
一人暮らしの40代の方が料理サークルに入るなど充実したものだった。

- ・青少年ものづくり講座 プロから学ぶアニメーション作り 「田無公民館」 報告書

○委員：
感想をお願いします。

○事務局：
今年新地町のフェスティバルに参加したサークル「ウインズパストラレ」のメンバーにご協力をいただいた。今回適応指導教室の児童4名親子さんとともに参加できた。西東京市の通常学級の児童と一緒に、また中学生も入って皆で楽しくアニメーションを作ることができた。ただ市内の適応指導教室の参加者がいなかったの今後呼びかけていきたい。

○委員：
学校の方からはなかなか発信できないので是非ポスターでもいただきたい。一番いいところに貼りたい。協力していきたい。

○委員：
地元の小学校に力を入れて適応指導教室スキップに力を入れられるといい。その時にもうひと押しがたぶん公民館の方がされても難しい。先生という立場の方がもうひと押ししてくださっていると思う。そのひと押しを誰がするかというところで、一緒になってやっていけたらいいのかと思う。

○委員：
適応障害の方とマッチングさせたわけだと思うが、一般の方の態度はどうだったか。

○事務局：
まったく違和感はなかった。

- ・高齢者問題講座「日々に活かせる身体再発見講座」 「田無公民館」 報告書

○委員：
担当者の狙っていた年齢層と実際の参加者と違ったということだが現実はこちらにある。リタイアした人はすぐには社会に出てこない。高齢者がでてきても健康寿命という点ではあまり気にしなくていいと思う。

- ・料理がつなぐ温か地域の交流 「田無公民館」 報告書
- ・人権講座関連写真展「私の居場所」 都立保谷高等学校写真同好会作品展 「保谷駅前公民館」 報告書

○委員：

どういう経過で高校とのつながりができてきたのか。

○事務局：

高校の先生に声をかけて高校生の居場所という題材で写真展を開催することになった。高校生が発表する場が少ないので継続してやっていきたい。

・人権講座 困難を「生きる力」に変えるヒント 「保谷駅前公民館」

○委員：

全8回を記録にまとめるというのも大変読み応えがあると思う。高校とつながるというのも珍しい。

○委員：

困難を生きる力に変えるヒントになっていると思う。今後も継続してほしい。

議題4 事務連絡及び情報交換

○事務局：

事業評価公運審メンバーの選出については、次回までに決めていただきたい。

1月16日の研修について、参加可能な方がいたら事務局まで連絡いただきたい。

平成26年度第10回定例会 1月28日（水曜日）午後6時30分～ 於：田無公民館 第二学習室